

支えあう街

設立50周年記念合併号

発行責任者 鶴ヶ谷地区社会福祉協議会



鶴ヶ谷地区社協設立50周年に思う

鶴ヶ谷地区社会福祉協議会
会 長 木津谷 恭規

鶴ヶ谷地区の皆様、日頃から鶴ヶ谷地区社会福祉協議会にご協力いただき誠にありがとうございます。

鶴ヶ谷地区社会福祉協議会は、お陰様で今年度設立50周年を迎えることが出来ました。これもひとえに地域の皆様、各町内会様、各関係諸団体様のご協力があったの事と深く感謝申し上げます。

私が会長をお引き受けして一年が過ぎようとしています。未だにコロナ禍にあって、いろいろな事業の開催が困難な現状で、役員共々、右往左往している今日この頃です。

設立50周年にあたり、「支えあう街」の創刊号(H14年度)から手に取って見ました。様々な事業が会員の皆様のご協力で開催されていたことが掲載されており、諸先輩方のご苦勞を垣間見ることが出来、改めて、この日を迎えられたことは、諸先輩方のご努力があったの事と感慨深く、感謝の思いでいっぱいになりました。

その中でも、前任の佐藤泰彦会長(現顧問)は25年の長きに亘り社協は元より地域を纏めてこられました。ご苦勞が沢山あった事と思います。これまでのご尽力に、改めて、御礼を申し上げます。

私は現在民生委員として地域見守り活動等を続けておりますが、コロナ禍で活動の難しさを日々痛感しております。そんな中、2011年3月の東日本大震災の事が思い起こされました。余震がある中、地域の福祉委員さんや、民生委員さんたちが、一人暮らしの高齢者の方々の、安否確認を率先して巡回していたことを目の当たりにして感激した事や、各町内会で各自の家庭から食料を持ち寄り炊き出しをしたり、また、被災地にも支援物資を送付するなどの活動をした町内会もあったと記憶しています。

その様な活動を見て、鶴ヶ谷の住人(仲間)で良かったと感じた事を思い出しました。見守り活動は様々な困難なこともあります、一人も置き去りにしない精神で、次の世代にバトンを繋いで行きたいと、思いを新たにいたしました。

次の50年を目指し、これからも「向こう三軒両隣」地域の皆様や、町内会様、区社協様、両民児協様、地域包括支援センター様等にご協力いただきながら連携を密に取りあって、安心して住み良い鶴ヶ谷となるよう、社会福祉活動を頑張ってまいりたいと思います。今後とも更なるご支援・ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。



設立五十周年を迎えられて

社会福祉法人仙台市社会福祉協議会
会 長 山浦 正井

鶴ヶ谷地区社会福祉協議会が、この度設立五十周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

昭和、平成から令和へと地域そして福祉を取り巻く環境が大きく変化する中において、貴会がこの間一貫して“福祉のまちづくり”の主体として多様な活動を通して、地域福祉の推進に貢献されてこられたことに、まずもって深く感謝と敬意を表します。

少子高齢化や地域のつながりの希薄化、価値観の多様化が進み、今日、私たちは社会的孤立や家族機能の低下等といった複雑・多様化した地域課題にも直面しています。加えて、毎年のように発生する自然災害への対応や現在最大の関心事であるコロナ禍の下での地域活動の継続といった大きな課題も抱えています。

こうした課題は、公的サービスのみで解決できるものではありません。地域住民が「我が事」として参画し、世代や分野を超えて「丸ごと」繋がって助け合いながら暮らしていける「地域共生社会」を築いていくという取り組みが全国的に進められています。

貴会は、多年にわたり住民相互の支え合いである小地域福祉ネットワーク活動を展開されてこられ、また、「NP0法人暮らしのサポートセンター」を立上げられる等、まさに時代の要請に率先して対応されてこられました。東日本大震災に際しても、地域の復興公営住宅に入居された被災者に寄り添い、関係団体とともにその支援に取り組まれました。

このように貴会が積上げてこられた実績は、地区社会福祉協議会活動の範とすべきものであり、今後の地域共生社会の実現にとって極めて重要な意味をもつものと言えましょう。

本会も、「ともに生き、支えあうまち」を目指して貴会と一緒に歩みを進めてまいり所存です。

最後になりますが、五十年の輝かしい活動を基礎に貴会の益々のご発展と、地域の皆様のご健勝をご祈念申し上げて、お祝いの言葉といたします。





祝 鶴ヶ谷地区社協設立50周年 新たな50年へ支えあう街づくりをめざそう！

鶴ヶ谷地区社会福祉協議会
顧問 佐藤 泰彦

鶴ヶ谷団地が造成後まもなくの昭和46年に鶴ヶ谷地区社協が設立。以来50周年の佳節を迎えました。これまでに携わってこられた多くの皆様、又会員として長きに渡り、会を支えて下さった皆様に心から、感謝申し上げます。この50年の間、2度の大地震そしてこの2年間にわたる新型コロナの脅威等、私たちの日常生活に大きな影響を与えました。この間、私たち地区社協の活動もストップ状態を余儀なくされたときもありました。そのような中であっても、見守り活動は続けられました。「あの人は大丈夫だろうか、家の電気の明かりが見えないが、どうしたんだろう」と。地域一丸となって取り組んできた見守り活動が「支えあう街づくり」として、着実に定着していることを実感しました。

2015年、国連サミットはすべての国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中に2030年を達成年限とし、17の目標(SDGs)を定めました。その基本は「誰れ一人取り残さない」との精神です。貧困や飢餓をなくし福祉を促進するなどがその内容です。それを実現するためには、国や自治体の施策だけでは充分ではありません。恩恵を受けられず、漏れる人が出ます。そんな方を地域でこまやかに見守り、声がけして安心して暮らしていけるよう活動しているのが‘小地域福祉ネットワーク’の活動であると理解しております。そして私たちはこの活動を通じて、ささやかながらSDGsの主旨の小さな部分の一環を、地域の活動としての役割を担っていると思っています。

私は、昨年4月地区社協会長を辞し、顧問になりました。地区社協設立50年のうち通算半分の期間25年を皆様にお世話になったこととなります。この間、印象に残ったこととして、皆様に感謝したいことが2点あります。1点目は社協が行う諸事業に対し、地区民児協さんと各町内会長さん等が積極的に協力、参加して下さったおかげで、これまでスムーズな運営が出来たことです。これからも、地域の福祉を支える力として協働していけたらと思います。2点目は、仙台市からの助言とご配慮をいただいたことに感謝したいと思います。近年、社協活動は広範囲かつ多角化し、内容も複雑化してきており、諸団体との連携が必要となってきました。このため事務所を固定化し、公共化の必要があります。

わが地区社協は最初は旧鶴ヶ谷市民センターの管理室を事務所として借り受け、“地区福祉センター”として運用してきました。しかし、東日本大震災により市民センターが大きな被害を受け解体されることになり、それに伴い福祉センターも廃止となり、地区社協の拠点は行き場を失いました。この時、市住宅課から二丁目に新しく建設された市営住宅の一室をLSA室(ライフサポートアドバイザー室)として地域の団体に貸与が可能であると聞き、申請した結果、使用許可を得ることができました。地区社協事務所を開設できたおかげで、充実した打ち合わせが可能となり、役員や他団体との連携も密に行うことができ、誠にありがたく感謝しております。この恵まれた環境を最大限に生かし、新たな50年に向け、みんなで協力しあい、支えあう街づくりをめざしていきましょう!!

健康への意識高まる

つるがやりフレッシュ倶楽部

代 表 中村 仁

鶴ヶ谷地区社会福祉協議会が設立50周年を迎えたとのこと、おめでとうございます。私も少しは協力することが出来たのかと思っております。私が鶴ヶ谷地区社協の常任理事を引き受けたのは介護予防運動自主グループつるがやりフレッシュ倶楽部で活動していたからです。

つるがやりフレッシュ倶楽部は平成17年1月に体を動かすことで体力、筋力が向上すれば転倒を防ぐことで骨折予防につながるとの思いで活動を開始して18年目を迎えました。鶴ヶ谷地区社協より社会福祉活動の推進を行っている福祉団体として助成金をいただいております。ありがとうございます。

足腰の衰えは老化のせいばかりではなく、筋肉を使わなくなることも大きな要因です。使えば貯まるのが筋肉、しかも何歳になってもやっただけの効果があることが老年医学の研究でわかっています。だから運動習慣をつけようと行政や大学の専門家などの協力を得て始まったのがつるがやりフレッシュ倶楽部です。健康で長生きするために必要なのは「運動」「栄養」「社会参加」です。これから私たちが大切にすることは★ちょきん(貯金は使えばなくなるが貯筋は使えば貯まる)★きょういく(今日行く所がある)★きょうよう(今日用がある)でいろいろな人と楽しく交流していきたいと思っています。そして行動範囲が広がれば住民同士のつながりも広がります。住民同士のつながりが広がることでその結果、災害などに強い鶴ヶ谷になることを目指しています。これから鶴ヶ谷地区も高齢化率が下がり、大きく変化していくことと思います。若い世代と高齢者が協力し合い「元気な鶴ヶ谷地区」といわれることを期待しております。

鶴ヶ谷地区社会福祉協議会の益々のご発展を心から祈念申し上げます。

沿革

五十年のあゆみ

年度	昭和47年度 ～51年度	昭和52年度 ～55年度	昭和56年度	昭和57年度 ～61年度	昭和62年度 ～63年度
会長名	初代 横澤文質	2代 北目 迪	3代 伊藤 寛	4代 小山雅巳	5代 佐藤泰彦
主な事業内容	- 鶴ヶ谷地区社会福祉協議会設立 「つなぎ資金」の運用開始(平成13年廃止) - 生活困窮者の為の一時金貸与制度創設	宮城県沖地震発生に伴い各町内会と連携を取る	共同募金活動の組織を強化	- の指定を受ける - 仙台市社会福祉協議会より「第1号モデル地区社協」 - 仙台市ボランティアの指定を受け福祉委員会を設立 - 一人暮らし高齢者懇談会(ふれあい昼食会)を開催 - 鶴ヶ谷地区福祉大会を開催	- 地区社協だよりを発行(全世帯に配布) - 鶴ヶ谷地区社会福祉センターを開設

さらなる発展を祈念して

鶴ヶ谷地域包括支援センター

所 長 氏家 栄市

鶴ヶ谷地区社会福祉協議会が創立50周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

鶴ヶ谷地区は、昭和40年代に仙台市によって宅地開発が行われ、ピークの人口は2万人を超えていましたが、すでに50年という歳月を経過した今日、現在の人口は1万3千人ほどに減少し、高齢化率も宮城野区内で際立って高い30%台後半となっています。

このように地域の姿が大きく変貌する中であって、鶴ヶ谷地区社会福祉協議会では、平成24年10月に鶴ヶ谷地区内の福祉関係団体との親睦や連携を深めるために、「福祉ネットワーク交流会」を立ち上げるなど、鶴ヶ谷地区にお住いの皆様にとって身近で欠かせない存在となっていることは言うまでもありません。

おりしもこの平成24年4月には、鶴ヶ谷地域包括支援センターが鶴ヶ谷二丁目の「鶴ヶ谷ショッピングセンターアバイン」に開設し、間もなく10年目を迎えますが、鶴ヶ谷地域にお住いの高齢者の方々をサポートするための相談・支援窓口としてスタートした年でもありました。

その後、鶴ヶ谷地区社会福祉協議会において毎年開催される「福祉ネットワーク交流会」だけでなく、福祉委員会全体研修会の場合などを活用させていただき、共に支え合うという地域づくりを推進しているところであります。今後も引き続き、いろいろな機会をとらえて連携を深めていきたいと考えております。

現代社会が抱える少子高齢化に加え、今年度は新型コロナウイルス感染症が影響し地区社協の活動にも大きな影響があったものと察します。今後、コロナ禍による影響が不透明であります。鶴ヶ谷地域包括支援センターとしても皆様方の活動にお役に立てるよう寄与して参りたいと思っております。

結びに、鶴ヶ谷地区社会福祉協議会が発行している広報紙の名称にもなっている“支えあう街”の実現に向けて、地域の特性を生かし、地域に根ざした活動をご期待し、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成元年度 ～2年度	平成3年度 ～6年度	平成7年度 ～10年度	平成11年度～平成13年度
6代 佐藤 実	7代 宮城圭子	8代 佐藤 実	9代 佐藤泰彦
●愛の電話訪問「鶴ちゃん電話」の活用開始 (平成11年停止) ●参加 地区各諸団体合同広報誌「ふるさと鶴ヶ谷」の発行に	●設立20周年の会を開催 ●鶴ヶ谷市民まつりに参加協力 ●他福祉諸団体との連携強化を計る	●を受け事業を開始 小地域福祉ネットワーク活動推進モデル地区の指定	●指定を受ける 小地域福祉ネットワーク活動のフLOORアップ地区の ●各町内会長に依頼し福祉委員 111名を委嘱、活動を開始 ●鶴ヶ谷地区社会福祉厚生基金 を創設 ●設立30周年記念式を開催



鶴ヶ谷50周年ラッシュに思う

鶴ヶ谷西地区民生委員児童委員協議会

会長 菊地 章

高度成長期の55年前、私は生まれ育った東仙台の親元を離れ上京しました。その頃、燃料になる杉穂拾い等幼い頃に遊んだ思い出の残る裏山は、鶴ヶ谷というニュータウンに生まれ変わって建築ラッシュとなり、多くの子供達を連れた若い世代が住む街になっていました。それから35年、故郷に帰る鮭のように、私が老いた父母の傍近くの鶴ヶ谷に戻ってきた頃の鶴ヶ谷は、生まれ育った多くの子供達が巣立ってしまい高齢者の街に変わっていました。それでも鶴ヶ谷は歩みを続けました。大震災の頃から建替えラッシュが始まり、子供達を連れた若い家族が引っ越してきて学校の生徒数も増加に転じ、老壮青のバランスのとれた成熟し活気ある街に変身しつつあります。

そんな中のこの数年、50周年の言葉を多く聞くようになりましたが、地域社会のインフラである学校や町内会と並んで鶴ヶ谷地区社協も50周年を迎えたと聞き、鶴ヶ谷の街と共に歩んできた地域福祉ボランティア活動の歴史を感じました。これからも支えあう街の住民の心、を形にする地域ボランティアの一員として民生児童委員も鶴ヶ谷と共に歩んでまいります。



年度	平成14年度	～
会長名	9代 佐藤泰彦	
主な事業内容	● 鶴ヶ谷地区社協だより「支えあう街」創刊 ● 町内会のサロン活動への助成制度を創設（7町内会が実施） ● 鶴ヶ谷地区福祉団体との懇談会を開催 ● 福祉活動推進の為に一人暮らし高齢者820名にアンケート調査を実施 ● 47名にて開始 つるがやリフレッシュ倶楽部（会員281名・推進員） ● 鶴ヶ谷地区社協の事業として「ふれあいサロン」を開催 ● 新・鶴ヶ谷福祉センターが開設 ● 設立40周年の祝賀会を開催 ● イザール室として利用開始） り貸与、ライフサポートアドバ（2丁目市営住宅内に仙台市よ） 新・鶴ヶ谷福祉センターが開設 ● 要支援者の安否を確認 東日本大震災発生 ● 厚生積立金より震災助成金 各町内会に鶴ヶ谷地区社協を交付 ● 第1回鶴ヶ谷地区福祉ネットワーク交流会を開催 ● 鶴ヶ谷地域包括支援センター の担当地域が鶴ヶ谷全地域へ 拡大	
		

鶴ヶ谷地区社協五十周年を祝して

鶴ヶ谷東地区民生委員児童委員協議会

会長 三品 恵一

鶴ヶ谷地区社会福祉協議会設立50周年おめでとうございます。

これまで鶴ヶ谷地域のために諸活動を実施してこられた、佐藤顧問はじめ数多くの旧役員や現在の木津谷会長と現役員の方々のご苦勞に対し、深く感謝を申し上げます。

地区社協は、地域住民が安心して暮らせる地域づくりのために、大きな目標として、福祉課題の解決や福祉のまちづくりの実現ということが最終目的だと理解しております。具体的には、小地域福祉ネットワーク活動や地域内の福祉活動の推進などを実施していますから、福祉委員を兼務している私達民生委員児童委員を構成している地区民児協としても、地区社協との関係は、極めて重要だと思っております。

最近のコロナ感染症の発生を踏まえ、地区社協と共に、他の地域福祉団体、行政、地域包括支援センターなどと連携、協働しながら活動していくことの重要性がより必要だと思う今日このごろです。

最後に、皆さんご存知のとおり、鶴ヶ谷二丁目地内の再整備事業が終了し、続いて鶴ヶ谷六丁目地内では、仙台市鶴ヶ谷第二市営住宅団地再整備事業が始まり、第一工区解体工事が進んでおり、将来における新たな鶴ヶ谷団地のまちづくりに期待しています。

令和3年度

として発行

● 広報誌「支えあう街」No.28号を設立50周年合併号

● 設立50周年を迎える

● がハートケア鶴ヶ谷内に移設
鶴ヶ谷地域包括支援センター

等の開催会場となる。

になり、福祉委員全体研修
地域への会場の提供が可能

● ハートケア鶴ヶ谷が鶴ヶ谷中央に完成

(災害公営住宅入居者が参加)

● 第3市営住宅が完成、歓迎会を開催



センターまつりに参画

● 鶴ヶ谷市民センターが完成し地区社協も鶴ヶ谷市民

ブロック会議の定着に努める

● 会長との懇談会を開催、コーディネーター会議や、
小地域福祉ネットワーク活動を推進する為、各町内

21名参加

● を開催(災害公営住宅へ入居の
「ウェルカムフェスタinつるがや」





つるがやりフレッシュ倶楽部

鶴ヶ谷東コミュニティーセンター

実施会場リーダー 木津谷 恭規

つるがやりフレッシュ倶楽部は、17年間続いている、体操を中心とした倶楽部です。毎月、第2・第4月曜日(12月は第1・第3)の10時～11時30分まで行っています。

内容としては、★ストレッチ体操 ★杜の都のおトク体操1と2 ★鶴ヶ谷リフレッシュ体操 ★皆さん5つ位の輪になってお茶とおしゃべりタイム(これが一番嬉しそう！) ★最後に整理体操やちょっとしたお遊戯タイム(お手玉や踊りなど、推進員が趣向を凝らして)等です。

私が最初に参加した時は、皆さん私よりも先輩なので、そんなに疲れないかなと高をくくっていたのですが、どうしてどうして、ハードでした。比較的若い私がへばるわけにいかないと思い、必死に頑張りました。

今は、コロナの影響で、前半9時45分から1時間、後半11時から1時間の2回行ってます。参加人数が多いことから、飛まつ感染を防ぐには、2回に分けざるを得ません。2回開催する事は推進員の方々の負担があり、早くコロナが収束することを願うばかりです。

そんな大変な中ではありますが、5月に端午の節句祝い、11月にお楽しみ会、2月にひな祭り祝いと年に3回ほどですが、唄あり、手品あり、かくし芸ありと、とても楽しい時間を過ごします。うそじゃないですよ。

会員数は、現在47名ですが、いかんせん推進員(現在、10名体制)の方々も年々歳を重ね事業推進が困難な状態が続いてます。東コミセンのお近くにお住いの方で、推進員をお願い出来る方がいらしゃれば是非、ご一報くだされば幸いです。とにかく、みなさん元気で若々しいです。お年の割には!!



三丁目町内会ふれあい交流会

鶴ヶ谷三丁目町内会
会長 小原 伸

コロナ禍のため、一昨年来自粛していた交流会を令和3年10月24日に行いました。
今回は会食はなしで、代わりに20人の参加者の皆さんと、運動不足になりがちな自粛生活の体をほぐすストレッチ体操をやってみました。

感染予防のため、検温・手指消毒・換気・座席の間隔を空け、マスクを着用し、椅子に腰かけて服装も普段着のままでできる体操なので、汗もかかず息も切らさずに楽しく体を動かすことができました。

会話は少な目でしたが、参加した皆さんも知人・友人に再会し一緒に体操して楽しい雰囲気の一時間を過ごしていただきました。やはり、人と一緒に何かをすることは喜びであり、我慢を強いられる自粛生活のストレス発散とモチベーションを向上させるものなのだとあらためて感じました。

その後、感染が拡大したため令和3年度の交流会は、この一度きりになりました。
コロナ禍が収束してまた笑顔で交流会ができるようになる日のためにもまずは、町内の感染対策を徹底していきたいと思います。



私たちの鶴ヶ谷

思い出の年表

(鶴ヶ谷市民センター様より一部資料提供いただきました)

年 号(西暦)	鶴ヶ谷のできごと		
昭和38年(1963)	宮城県仙台第三高等学校開校 三高周辺はまだ山	団地造成	鶴ヶ谷団地造成のはじまり
昭和40年(1965)	鶴ヶ谷団地造成開始		
昭和43年(1968)	二丁目2階建アパート入居開始		
昭和44年(1969)	一丁目東入居開始 バス鶴ヶ谷四丁目開通		
昭和45年(1970)	鶴ヶ谷保育所開設 お人形社第二幼稚園開設仮設 仮設ショッピングセンター開設 鶴ヶ谷三丁目バス停まで舗装 団地入り口バス停坂道舗装	ショッピングセンター	昭和45年に二丁目に仮設ショッピングセンターができたが、それ以前は近隣地域からの移動販売などに頼っていた。
昭和46年(1971)	鶴谷小学校開校 徳陽相互銀行鶴ヶ谷支店開店 七十七銀行鶴ヶ谷支店開店 四丁目ショッピングセンターオープン 鶴ヶ谷ショッピングセンターオープン 鶴ヶ谷公設市場開設 バス七丁目線開通 団地内に交通帰省交通標識設置	小学校開校	昭和38年、東光台団地はあったが、山の中に仙台三高が開校。八年後の昭和46年、鶴谷小学校が開校、さらに昭和48年、鶴谷東小学校が開校した。鶴谷東小学校からの要請で、父母住民が校庭の整地に協力した。岩を砕いての作業でグラウンドが完成し、手造りの開校記念大運動会が実現した。その時の感動の言葉「創造の喜び深く」が校歌の歌詞になり、体育館の傍らに記念碑として刻まれている。昭和49年に燕沢小学校が、平成3年に西山小学校が、それぞれ開校した。
昭和47年(1972)	鶴ヶ谷郵便局開局 東消防署鶴ヶ谷出張所開所 東警察署鶴ヶ谷交番開所 鶴ヶ谷市民センターオープン 鶴ヶ谷温水プールオープン 団地入口交差点に信号機設置	中学校開校	昭和48年4月、鶴谷中学校が開校、屋上で開校式が行われた。生徒数は次第に増加し、昭和58年には1400人を超えた。校庭にプレハブ教室を作り、遠足では1学年だけでバス11台を連ねるほどだった。昭和61年に西山中学校が開校したが、その後生徒数は減少に転じた。
昭和48年(1973)	鶴谷東小学校開校 鶴谷中学校開校 鶴ヶ谷幼稚園開設 東陽幼稚園開設 希望園保育所開設		
昭和49年(1974)	燕沢小学校開校 鶴寿苑開設 トーコー鶴ヶ谷店オープン	ケヤキ並木	鶴ヶ谷交番のある鶴ヶ谷中央交差点を中心に、東西に伸びる道路には団地造成直後にケヤキが植えられた。この道路には当時の団地としては珍しい地下ケーブルが埋設され電柱がないことから、木々は伸び伸びと成長し、今では季節ごとに姿を変える美しい並木道になっている。
昭和50年(1975)	鶴ヶ谷第二保育所開設 鶴ヶ谷生協オープン 仙台オープン病院 診療開始 仙台市連合町内会長会に入会		
昭和53年(1978)	鶴谷養護学校開校(後の特別支援学校) 6.12宮城県沖地震発生		

昭和55年(1980)

昭和57年(1982)

自由ヶ丘郵便局開局
鶴ヶ谷地区賀詞交歓会スタート

昭和60年(1985)

昭和61年(1986)

西山中学校開校

平成元(1989)

平成3(1991)

西山小学校開校

平成4(1992)

燕沢コミセンオープン

平成5(1993)

鶴ヶ谷児童館開館

平成7(1995)

トーコー鶴ヶ谷店閉店

平成8(1996)

鶴ヶ谷コミセンオープン

鶴ヶ谷西児童館開館

平成9(1997)

鶴ヶ谷東コミセンオープン

アバインオープン

地元学冊子「鶴ヶ谷」発行

ファミーナオープン

平成10(1998)

平成15(2003)

燕沢児童館開館

平成18(2006)

平成20(2008)

平成21(2009)

仙台三高共学化

オープン病院⇄バイパス道路開通

二丁目新市営アパート建設開始

平成22(2010)

仙台三高新校舎落成

平成23(2011)

3.11東日本大震災

小中学校に避難所開設

公共施設・商業施設・一般住宅などに被害多数

地域各所に避難所開設

東陽幼稚園閉園

平成24(2012)

鶴ヶ谷市民センター取り壊し

鶴ヶ谷市民センター仮事務所開設

ファミーナ取り壊し

西山児童館開館

平成25(2013)

ファミーナ新築オープン

平成26(2014)

鶴ヶ谷市民センター建設開始

第二市営住宅に災害復興公営住宅2棟完成

第一市営住宅の最後の2棟完成

平成27(2015)

新・鶴ヶ谷市民センター完成

七十七銀行・みやぎ生協新築移転

団地入口にみんなの広場完成

第二市営住宅(災害復興公営住宅)が完成

令和3(2021)

鶴ヶ谷郵便局移転開局

二丁目商業用地にコンビニ・動物病院等が開業

鶴ヶ谷中央の歩道橋撤去

団地入口の信号が時差式信号に更新

第二市営住宅建替工事に伴い第一工区の解体工事開始

イチョウ並木



ハクモクレン並木



団地造成後、地区ごとの公園と鶴ヶ谷中央公園が整備され、主要道路には、様々な街路樹が植えられた。ケヤキ並木の他、三高前のイチョウ並木、鶴ヶ谷小学校から西側のハクモクレン並木などが代表的である。

コミセン・オープン



地域住民の生涯施設として市民センターは昭和47年にオープンしたが、さらに平成4年に燕沢コミュニティセンター、平成8年に鶴ヶ谷コミュニティセンター、平成9年に鶴ヶ谷東コミュニティセンターが次々とオープンし、多数の地域団体や趣味のサークルなどが活動の拠点として利用している。

新しい道路



オープン病院から仙台バイパスへの直線道路は平成20年10月、当初の予定より10年遅れで開通した。通勤や買い物などには便利になった反面、交通量の増加による交通事故の多発・騒音・ゴミ飛散などの問題も起きている。

市民センター解体



大地震は鶴ヶ谷地区にも大きな被害をもたらした。市民センターも被災、翌年には取り壊された。指定避難所である小中学校の中で鶴ヶ谷東小学校は被災のため使用できず、コミセンや町内会集会所なども避難所となった。食料や生活用水の不足など困難を余儀なくされる中、地域住民リーダーの活躍・数多くのボランティアによる支援活動・中高生の巡回支援などで乗り切った。

新・市民センター完成



歩道橋撤去



第一工区解体工事



令和3年度 主な活動内容

- ◆ 4月24日 定期評議員会
議案書郵送 書面表決にて承認
- ◆ 6月19日 会費納入説明会
10/7 1,797,200円社協に納入
- ◆ 6月22日 新任福祉委員研修会16名参加
- ◆ 7月16日 各種団体へ助成金交付6団体
- ◆ 9月25日 赤い羽根共同募金説明会
1/31 1,381,173円区社協に入金
- ◆ 11月13日 福祉委員研修会 約70名参加

- ◆ 3月9日 コーディネーター会議 9月は中止
- ◆ 9月・3月 福祉委員ブロック会議
- ◆ 4月～3月 常任理事会 8回
- ◆ 3月8日 役員会 1回

コロナの関係で予定事業の大半が中止となりました

※ 受賞おめでとうございます ※

地域の福祉活動に積極的推進し住みよいまちづくりに貢献された
16名の方に感謝状が贈呈されました

高橋 絹子 様	浅野 昌朗 様	永田 孝子 様	田代 良二 様	菊田恵美子 様	斉 利江 様
武田マリエ 様	大沼 宣子 様	渡辺 文枝 様	須田美美子 様	伊藤とよ子 様	升谷 葉子 様
佐藤 京子 様	鈴木 春子 様	濱田イサ子 様	菅野 隆二 様		

共同募金奉仕員として多年にわたり貢献され
仙台市共同募金委員会より会長表彰を受けました 三嶋 武 様

令和3年度鶴ヶ谷地区社会福祉協議会役員

役 職	氏 名	役 職	氏 名	役 職	氏 名	役 職	氏 名	役 職	氏 名
会 長	木津谷恭規	常任理事	横 田 孝 子	常任理事	竹 内 敦 子	理 事	高 野 栄 二	監 事	大 瀧 一 彦
副 会 長	三 嶋 武	常任理事	桐ヶ窪かめよ	常任理事	菅 野 茂 雄	理 事	浅 野 昌 朗	監 事	浅 野 昭 子
副 会 長	渡 邊 恵 子	常任理事	相 澤 秋 夫	常任理事	寺 田 正 恵	理 事	大 越 敏 男	顧 問	佐 藤 泰 彦
		常任理事	中津川幸三	常任理事	佐々木信子	理 事	赤 間 園 子		

鶴ヶ谷地区共同募金会会長 三嶋 武



編集
後記

皆様のこれまでの活動の積み重ねで、50周年を迎える事が出来、その思いがいっぱい詰まった合併号を発行する事が出来ました。感謝！これからも鶴ヶ谷地区社協にお力添え頂きますようお願い申し上げます。